

武蔵野市第五期長期計画・調整計画策定委員会  
関係団体意見交換会（文化・市民生活／行・財政分野）

1. 開会（午後1時40分）

2. 策定委員紹介

（事務局による会の流れの説明の後、夏目委員長が挨拶し、各委員を紹介した。）

3. 意見交換

【市民によるガバナンス推進会議】 長期計画は大変すばらしいものです。ただ、財政計画の収入の面で私は異論があります。また後からご説明します。

【むさしの男女共同参画市民協議会】 苦節30年、13ページの「男女共同参画計画の推進」で初めて第三次男女共同参画計画を尊重し、拠点となるむさしのヒューマン・ネットワークセンターの機能と位置づけをはっきりして、条例制定、推進体制の整備を図ると出していただいたことに本当に感謝します。私たちは必要に迫られて、長期計画の中への位置づけを願ってきました。私たちの今までの男女共同参画に対する取り組みについては、後ほど資料をお出しします。

【委員長】 貴重なご意見を、また資料でお教えいただければと思います。

【武蔵野合唱団】 武蔵野合唱団は緑町の団地から生まれて、ことし60周年を迎えております。この間、国際的にハンガリー演奏旅行、ハンガリー国立オーケストラ、スイス・ロマンドという世界一流のオーケストラとの共演など、幅広い活動をやってまいりました。まだF&Fができていないころ、百何十人いた合唱団が、あっという間に7人になって、潰れるのではないかということがありました。そのときに多くの音楽団体、あるいは芸術・文化に理解のある方々に訴え、マスコミも動かして、署名活動等をしてF&F音楽室を設立していただき、これを維持してきた。今日200名を超えるような大合唱団で国際的な活動ができるようになったのは、全てこの音楽室があったからです。それが危うくなるのではないかという危惧があります。取り壊すようなことが絶対にないように、もしもやるのであれば、それ以上の音響のよいものをつくっていただきたいと思います。

【A委員】 もし音楽室をなくすとしたら、それにふさわしい音楽が稽古できる場所をもっと増やしていく必要があると考えています。今まで武蔵野市は、施設をつくるだけで足りると考えてきたところがあると思うのですが、もっと積極的に取り組んでいく立場から、文化振興に関する方針を策定していく方向を出しました。皆様がより生き生きと活動できるようにはどうすればいいかというご意見をいただいて、検討していきたいと思っております。

【武蔵野ワンワンパトロール隊】 犬を連れて防犯活動をしています。ペットは、社会生活の中で非常に大きな割合を占めるようになった。高齢の方、特にひとり暮らしの高齢の方は、ペットが自分のパートナーとして非常に大きな意味を持つようになります。例えばペットを連れて歩く場所、公園の中にドッグランをつくれないうか。

裏の面では、ペットが殺され、捨てられている。繁殖業者がどのようにペットを扱っているか。良いお店も悪いお店もありますけれども、社会の中でペットショップというものを全く管理しなくていいのだろうか。動物愛護精神にのっとって、社会生活の中でペットをどう取り扱っていったらいいのか、将来的にどういう方向に持っていったらいいのかということを、ぜひご検討いただきたいと思います。

【委員長】 高齢者にとっては生きがいにもつながる、とても大事な機能を果たすとともに、ペットショップで売れるものだけ売って、売れ残ったものを始末する場所がないというようなことが事件につながる。そうした問題、今後の検討の中で議論していきたいと思います。

【緑懇話会】 緑町には、町内会、商店街、自治会、10 団体が参加する緩やかな活動があつて、スーパーの開設とか中央公園の問題、マンション建設、防災、商店街の活性化、道路の改修、バスの運行、高齢者福祉まで、地域の課題をみんなで話し合つて解決してきたという長い歴史があります。緑町のコミュニティ協議会とはまた違った役割で、両方が連携しながら活動を進めてきています。行政からの支援は全くなくて、私たち独自で自主的にずっと続けてきているものです。

今回、そこに高齢者総合センターの在宅介護支援センターから入っていただいて、今後の取り組みを強め、交流していこうという状況です。私たちが動くことによって、市の方もどういう中身があるのか見えてくる。必要に応じて市との交渉をさまざまな形で積み重ねてきて、市も参加していただくという形で、地域の問題を解決してきたわけです。今度、それを地域フォーラムという形で、どのように課題をわかつて、どういう組織をつくっていけばいいのか。実際にはものすごくエネルギーが要りますし、新しくつくっていこうとしたら大変なことです。市民参加と自治という問題をどのように根づかせていくのか、市の支援があるのかということをご検討いただければと思います。

【B委員】 武蔵野市は自治会を全ての地域に設けることはしないという形を選び、コミュニティセンターを中心とした市民自治を行っております。ただ、実際には青少協とか福祉の会といったいろいろな団体がテーマごとにつくられて、地域内で例えば防災一つとっても、そのどれにもかかわる問題を議論する場がない。行政も含めて、さまざまな団体がテーマを持ち寄つて議論する場として、地域フォーラムという仕組みを提案させていただいております。

緑町でこれまでしっかりと活動されてきたということは、地域の皆さんとも、コミセンとも連携があるということですので、提案をしていただくという形でも構いませんし、また、例えば緑町のコミセン等を中心としながら、何か問題があつたときにぜひ参加してくださいという形で呼びかけがあるかもしれません。地域フォーラムは今から皆さんの手をつくっていくものですので、ぜひいろいろな活用の形を考えていただき、また地域でご提案いただければと思っております。

【市民】 3点ほどまとめて質問いたします。

1点目は、武蔵野市は少ない農地面積でございますが、今、防災の避難地ということで市と契約しています。この畑については避難地ですよという看板を立ててほしいと思います。

2点目は水道事業です。かつて武蔵野市も東京都から給水を受けて、安定供給をするということになっておりましたが、残念なことに、今日まで中止になっております。今、境の浄水場が改修するという事ですので、それに合わせて、武蔵野市も安定供給ができるようにしてほしいと思います。

3点目は公会堂の件です。建て替えをする方向があるようですが、あそこは吉祥寺、井の頭線と交通の便もいいところですので、駐車場を取り壊して、駐車場を地下に入れてそっくり建物をつくったならば、NHKののど自慢を放送できるのではないかと思います。ご検討をお願いしたいと思います。

【C委員】 まず1点目。農地は農家の方から災害時の一時避難所にという申し出をいただいております。既に標示はしていると思いますが、中には老朽化した標示があるかもしれません。再度標示を充実させていきたいと思います。

2点目は水道です。東京都の中でも、多くの団体は東京都の水道局と一元化して、東京都が水道を供給するというシステムをとってきたのですが、武蔵野市は幾つかの理由から単独供給をやってきました。しかし、災害時も含めて、武蔵野市が単独で水を供給するというのは大変な努力と経費がかかります。受入側の東京都の問題もありますが、市としては、できるだけ安定供給を目指すという意味で、東京都との一元化の方向で協議を進めていきたいと考えております。

公会堂について、現在地で地下に駐車場を入れることによって建物が更新できるのではないかとするのは確かに1つのアイデアだと思います。ただ、吉祥寺南口は大変大きな問題を抱えております。バスの走行が非常に危険だということで、安全な交通体系に資するような形で公会堂の建て替えができないかと考えております。バリアフリーの観点からも非常に課題を抱えておりますので、ご意見も参考にしながら計画を進めてまいりたいと思っております。

【武蔵野の森を育てる会】 我々は緑のボランティア団体ですが、同時に、社会教育関係団体として教育委員会に登録しております。市民会館にも登録して、市民会館を学びの場として非常によく活用させていただきます。その経験から、武蔵野市の場合、コミュニティ形成とかまちづくりに関する学びを推進するという仕掛けがちょっと弱いように思っております。市民会館においても、人々の学びの拠点ということではありますが、実際の主催事業は教養的なものを中心となっており、登録スタッフも主に教養の関係が多いようです。討議要綱14ページに、「集会機能を有する市民会館」を検討するという表現がございますが、市民会館は単なる貸し施設ではなくて、主催事業もやっている社会教育の拠点施設ですから、15ページの基本施策4の(1)「生涯学習機会の充実」に、プレイスとまたちょっと性格の違う社会教育の施設として、例えば「学びとコミュニティ形成やまちづくりをつなげるための学習拠点としての機能強化を図る」というように位置づけていただきたい。

今、高齢者総合センターがあるところにかつて福社会館があり、その一部を使って社会教育の事業を行っていたと聞いております。社会教育の職員がサポートしながら市民自身がさまざまな課題を学び、自分たちで学習講座を運営して、そこで学んだ人たちが各種のまちづくりの活動へと広がっていった。現在の武蔵野市のコミュニティ協議会や市民活動を担っているある部分の人たちは、そこでの学習経験を経た人たちです。

邑上市長の「市民が真ん中」の趣旨は、市民自治と市民参加のはずです。そのためには、市民みずからが地域のことを学ぶ課題解決型の学習をすることが必要だと思います。市長の理念を実現させるためにも市民会館を学習拠点として強化して、まちづくりとつなげていっていただきたいと思います。

【A委員】 すごく明確で具体的なご意見で、検討させていただきたいと思います。集会機能的に教養とかそういうものの学びの場として使われているのを、もっとバージョンアップしていこうというご趣旨だと思うのですが、そのときに、市民がどのように運営にかかわっていくことを望まれているのかということ、ちょっとお聞きしたいと思います。

【武蔵野の森を育てる会】 2つ思いがあります。1つは、今、正規職員と非常勤職員、量的にはかなりいらっしゃると思います。こういう方々に社会教育主事の有資格者を登用するとか、そういう方に資格を取っていただくとか、人材の高度化を図ることによって、学びのコーディネーターとしての役割を果たすという可能性があると思います。

一方で、やはり市民自身の主体性も大事で、市民の参画が必要だと思いますので、職員と市民が協働で講座をつくっていくとか、さらには、まちづくり活動をやっているNPO、市民活動団体にも入っていただいて、まちづくりに必要な学習もそこで協議しながら、学びとまちづくりをつなげていく。さらには、各部局の課題のための学びは絶対に必要だと思いますから、市民会館が1つの結節点になって各部局の学習課題をうまくつなげていく。あるいは、コミセンも地域フォーラムをやっていくためには学びの機能が重要だと指摘されていますが、コミセンでの学びについても、市民会館で開発したプログラムや人材のサポートで進めていくのが理想ではないか。それに対して、意思ある市民の方々が本気になって協力して、みんなで盛り上げていければいいなと思っております。

【市民によるガバナンス推進会議】 まず第1に、過去五十数年、武蔵野市の人口は13万3,000人から14万人といったところですが、これからの20年間は市民の構成がかなり変わります。今までは高齢化が進んできましたが、私が最近とったアンケート調査では、若者がこのまちにどんどん入ってきて、2人、3人の子どもを持つようになり、子だくさんの家族が増えてきております。市民サービスに対する需要の内容が変わり、多様になると同時に、所得税の収入が今までほど伸びない。市の財政の赤字について非常に心配しています。

第2点は、市民参加というのは、単に何かの活動に市民が参加すればいいという問題ではなくて、このまちは俺がつくっているんだ、マイタウンという意識を持つことが重要である。長期計画を考えた場合、市民が積極的にイニシアチブを持って、このまちをよくしていく。そのためには、市民は単にベネフィットをシェアするだけでなく、コストをシェアするという意識をもっと強く出させていただくことが、これからの武蔵野市を好ましいまちにします。

【C委員】 人口は、全国的な傾向とは違って、これから微増になって、その後、減少に向かうと見ております。その中でも、特に西部地区のマンションの開発に伴い、予定以上に若い方が入ってきておりまして、特に乳幼児、小学生の数が非常に増えております。対策として、今、桜野小学校の増築とか保育施設の充実を図っておりますが、まだまだ足りない状況です。

今後、人口構成によって収入が減ってくるという見込みは、そのとおりです。所得のある方が入ってきておりますので、当面は若干の増収になると思いますが、その後、大きく伸びない。収入が大きく減ることはないと思いますが、伸びない状況になります。それに対して、歳出は扶助費の増加、義務的経費の増加があります。扶助費の中には高齢化に伴うもの、障害者支援費等に伴うもの、また子育て施設に伴うものがあり、これは一旦増えたらなかなか減ることはありませんので、その傾向は続くと見ております。ですから、長期的には、歳入は大きく増えないけれども、歳出が一定の割合で増えていくので、

どこかでバランスは崩れる。武蔵野市は基金を他市に比べて多く準備しておりまして、今約 360 億円ありますが、このままの状況であれば、将来は当然その基金を使って、最終的には枯渇するという見込みです。そういう将来像を見ながら現時点での政策を考えて、現在の住民だけが満足して、将来は非常に苦勞するというようなことがないように、着実な財政運営を進めていきたいと思っております。

【D委員】 市民が積極的にかかわるべきだというご意見で、この調整計画の中でも共助ということがかなり多く出てきます。ただ、今若い世代は、特に大企業で働いている人たちは世帯収入こそ高いけれども、朝から晩まで働きづめです。共助というとヨーロッパの豊かな支え合いみたいなイメージがあるのですが、実際にやろうとすると、よれよれで何とか支え合うという、すごくきゅうきゅうとしたものを私などは想像してしまいます。そういう難しい現状があると思います。

【委員長】 就労環境も含めて大事な問題だと思っておりますので、今後の検討課題として取り上げていきたいと思っております。

予算で、基金が枯渇することはほぼ目に見えている。今後、公的な学校などを建て替えていきますと、基金が足りなくなる。経常収支を基金で補填していたものがなくなる。そして、歳入と歳出のバランスは歳出が増えてくると想定されますので、これは国家的課題でもあるのですが、先ほどおっしゃっていただいた市民概念の根幹にいち早く立ち上がれるかどうかということは、非常に大きな問題だと思えます。

【武蔵野市クレイ射撃連盟】 いろいろ社会的な圧力とか関係当局の非常に厳しい状況下に置かれております。安全が担保されていけば問題はないという気もするのですが、世の中では非常に物騒な事件が発生している。当然市内でも発生している。武蔵野市の安全対策は、まず専門家不在という印象を受けます。安全基準の策定というビジョン策定もまだされていない。

例えば商店会で防犯カメラを設置する。これは非常に喜ばしいことだと思います。ところが、助成の申請書類が非常に煩雑なのです。それで援助を受けられないで、防犯カメラを設置しないという商店会も実際にあります。これから東京オリンピックに向けて、いろんな方が入ってきますので、明確な方針というかビジョンを提示して、それにのっとってやっていくという方策が必要だと思います。

私、コミセンの委員もやっておりまして、東京都と武蔵野市の連携が非常に重要だと思っております。東京都は町会等々に補助金から何から非常に手厚く、コミセンにはそういうお金は1円も流れてこないのです。世の中、お金だけではないのですが、施策に乖離があるのかなという気がします。

【C委員】 まず、市の職員は防犯とか警察官ではありませんので、なかなか専門家はおりません。犯罪捜査、犯罪抑止については、基本的には警察の仕事だと思っております。ただ、市としても安全対策を進める上で、ここ十数年、警視庁から現職の警察官1名の派遣を常に受けております。現在、安全対策課に所属して、いろんな警察との連絡調整、また、いろんなアドバイスを警察官の目でしていただいております。

安全に対するビジョン、方針にかわるものをご理解いただけるかどうかわかりませんが、市では毎年安全計画を策定しております。今年度、こういうことを防止していく、あるいは、こういうことに力を入れていくということで、例えば振り込め詐欺とか、自転車の安全運行、火災等も含めて、幾つかの目標を立てまして、安全計画を5月ぐらいに策定して、6月ぐらいにスイングで安全計画を公表し、推進

体制をつくるための安全大会もやっております。

防犯カメラにつきましては積極的にやっていますが、実はこれは市単独の事業ではございません。東京都と一緒にやっているので、武蔵野市だけが東京都から求められる書類を省略するわけにいかず、ちょっと煩雑な書類になっているかもしれません。改善の余地があれば改善したいと思います。昨年も3カ所とか、来年度もまた3カ所とか、防犯カメラについては皆さんの理解が大変深まり、また要望も強くなっておりますので、積極的につけていますつもりです。また、ここ2～3年にわたっては、学校の通学路にも防犯カメラをつけるということで準備しておりますので、もし商店会のほうで何らかの理由でつかないということがあったら、また個別にご相談をいただければと思います。

【B委員】 東京都が町内会ないしは自治会を基本にした施策をたてているのではないかということは、全くそのとおりだと思います。いわゆる町内会、自治会は、実質的には1960年代に多くの自治体でつくられたものです。ただ、武蔵野市は当時、革新市政であったこともありますが、あえて町内会、自治会をつくらないという選択をし、そのかわりに住民の自主的な参加によるコミュニティセンターをつくってきたという経緯があります。町内会は、基本的にそこに住んでいる人間は全員、強制的に参加することを前提とした組織です。コミセンは逆で、あくまで自発的に参加するものです。すなわち、町内会、自治会を地域の強制的な動員のツールには使わないという選択を当時の武蔵野市がしたと私は考えております。

いわゆる町内会方式は、全員が町内会に加入していることを前提にしているのでやりやすい仕組みです。町内会に伝えておけばやったことになり、ごみの収集などもお願いできる。現実には全員加入という前提が崩壊しているという部分を、形式は整っているで見なくても済むという面があります。逆に武蔵野市は、それが無いがゆえに大変な努力をしなければいけないのですが、だからこそコミュニティをつくるということにつながっている。これを維持するかしらないかは、最終的にはもちろん皆さんのご判断になると思いますが、私は今の武蔵野市のあり方は、1つの自治のあり方としてあり得べきものと考えております。

【緑町コミュニティセンター】 武蔵野市は町内会がないということですが、緑町には町内会がちゃんとありまして、あとは団地の自治会とか、マンションのいわゆる管理組合もしっかり自治会活動をやっております。最近、フォーラムということで案が出ておりますが、私たちも、どのような計画で、どのような動きをすれば一番いいか、いろいろ考えているところです。例えば防災にしても、福祉にしても、市は学校単位で進めております。その場合、小学校は八幡町と北町にありますが、緑町はない。いわゆる日赤関係も範囲がきちんとなっていないで、ばらばらになっている感じがします。そういうところまで整理しながらやっていくのか、今まである団体を続けていくのか、それも含めて、これからどういふふうに進んでいくのか、研究されていることがありましたら教えていただきたいと思えます。

【B委員】 いわゆる一般的な市町村における自治会は、強制的に自治会にしているというのがポイントです。すなわち、域内の全区域に自治会が存在し、その区域に住んでいる人は基本的に自治会に参加することを原則にする。これは決して「自治」ではありません。武蔵野市に自治会があるというのは、これは本当に自治会なんです。別に誰かがつくれと言ったわけではなく、必要だからつくられてきた。だから、むしろ皆さん方がつくられてきた活動だと私は考えております。

地域フォーラムをどうしようかというご質問は、皆さんと一緒に悩んでいきたいと思いますし、しか言いようがないのです。区域に関しては、この地域コミュニティの検討委員会の中でもかなり議論をしましたが、なかなか難しい。やはり歴史的な経緯があり、学区があり、福祉などは学区とは全く別のものがあったり、町会とかある種のまちのまとまりの単位もあり、ある地域は複数のコミセンに重複していたりと、地域によってはよくわからなくなっていたりします。私個人の考えとしては、緩やかに再編を進めていくことを目指したほうが良いとは思いますが、市が、あなた方は今日からこの線の中で動いてくださいと言うわけにはいかない。むしろ区域の問題は、複数の組織や複数のコミセンで地域フォーラムをつくらせて議論していただくという形を我々は想定しております。そのため、そういった中でどう整備したらよいのかという知恵を皆さんにいただきながら、考えていったほうが良いと考えております。

【リフレッシュ英語サークル】 我々のサークルは、主に市民会館を利用させていただいております。市民会館の出入り口に行くところとチラシがあって、これだけいろんな活動をしているというのがわかりますが、行かなくても、これだけITやらパソコンが普及している時代ですから、市のホームページから「市民会館」を開くと、こんな活動をしていますよというのを発信していただけるという。出入り口にあった「交流」という雑誌に、80ぐらいのサークルが載っています。これだけ活動をやっているのに、もったいないです。雑誌は年に1回の発行ですが、ペーパーレスの時代でもありますし、広報が、こんな活動がありますよというのを発信して、さらにどんな活動か知りたいときにはクリックすると出てくるようにしていただけないかという提案です。

【A委員】 実はほかの自治体で、私のところの学生と一緒に、フェイスブックや何かを通じて活動を発信する作業をしているのです。それをすると、集まりも含めて全然違います。例えば市民会館で大型のホームページがあって、機動的な情報を提供するところを別の何かでやるということができると、相当に改善されるだろうという気もします。検討材料にしたいと思います。

【E委員】 市あるいは教育委員会が、社会教育関係団体の活動をPRするという役割は非常に大事です。「交流」もそういう流れで市が援助してできた冊子だと思いますが、冊子は年に1回とか一定の期間を置いてでないといけませんので、ホームページを活用しての団体の活動のPRは非常に大事なことだと思います。調整計画の中でそこら辺が欠けているようであれば、前向きに取り組んでいくべきだと考えています。

【委員長】 ICTの活用の充実を検討課題にさせていただきます。

【NPO法人むさしの市民エネルギー】 我々は武蔵野の省エネ、創エネの啓発と、もう1つは市民共同の発電所をつくりたいということで、市の持っている施設の屋上をお借りしたいのですが、今のところ、武蔵野市は、市のものは市で全部やるということになっています。調布市は、民間に市の施設の屋根を貸して年間約1,000キロワットの発電所ができたのです。武蔵野市はここ10年以上、小学校、中学校の屋根に載せているのですが、トータルでまだ数百キロしかついていないと思います。民間の力と資金を使えば時間も結構買えますし、民間の意識も非常に高まります。場所さえあればお金をぜひ出したいという方は、市民の中に結構いらっしゃいます。特に原発よりはきれいな電気がいいという方は本当に多いので、ぜひその辺をご検討いただきたいと思います。

【C委員】 今、市の施設は24カ所ぐらいで、合計容量513キロワットぐらいの取り組みをやっています。ただ、学校は子どもたちに太陽の光から電気ができるんだということを見せていくという教育的な面と、災害時に、昼間に限定されるのですが、一部でも電力を賄うという意味もあります。国の買い取り制度が大分変わってきて、このまま進められるかという基本的なところでの不安感はあるのですが、ご指摘のことは今後十分検討させていただきたいと思います。

【武蔵野万葉の会】 生涯学習の仲間で、会員数は延べ70人ぐらいのグループです。人数が多いものから、今3交代ぐらいに分かれて集まっています。コミセンの場所取りもとても大変です。生涯学習を推奨して、そういうグループがたくさんある割には、利用できる施設が非常に少ないのではないかと感じています。西部地区では人口がどんどん増えています。その割にコミセンは境南コミセン、西部コミセン、桜堤で、桜堤は非常に小規模です。武蔵野市にあるコミセンの割合と人口からいったら、とても不公平感を感じているのですが、その点、どうなっているのかお伺いしたいと思います。

【E委員】 武蔵野市のそういう学習活動に使える場等は、決して少なくないと思っています。コミュニティセンターもしたり、いろいろな形で使っていただける場はあるのですが、一方で、活動していらっしゃる方がまた非常に多い。これは市として誇りにできることだと思いますが、そんなことで、結果的にはまだまだ足りない。もっとつくってくださいというお声かだと思いますので、そういうご意見を受けとめて、何ができるのか考えていかなければいけないと思っています。

その場合、単に市がつくるというだけではなくて、地元の皆様のご意見を聞きながら、どこにつくる、どういうものをつくるという話になりますが、公共施設全体の中で古くなったものは順番に建てかえながら、また、バリアフリーの面など、より使いやすい施設にしていくという大きな方針がございますので、現状では桜堤のほうは少し不足しているというご意見があれば、確かにそういう面はあるかなと考えているところでございます。

【B委員】 コミセンの絶対的な量の問題とは別に、使いやすさの問題はあるのかもしれませんが。例えば予約体制等については、各コミセンで自主管理されていますので、いろいろお話し合いしながら、その地域の事情に合わせた予約の仕組みを考えていただくのがよいのではないかと考えております。ただ、その上で絶対量が足りないということは、こういった機会等を通じて言っていただくことで、我々の中でも議論の俎上にのせていければと思っております。

【NPO法人自転車安全運転検定協会】 うちの団体は20代と30代のスタッフで構成されていて、あと大学生と一緒にやっているのですが、知恵が足りていないので、どう動いたらいいかというのがわかっていない。ほかの団体の若手の方のお話をお聞きしても、そういう方が多いように感じます。今、吉祥寺のある商店会の方から、我々は高齢だから、知恵はおまえたちに渡すけれども、活動はおまえたちがしろという話をいただいているぐらいなので、そういう窓口といいますか、若手が動く上で、もうちょっとわかりやすい環境づくりをお願いできたらというのが1点です。

もう1点は、14ページの「市民文化の醸成」というところですが、当団体は検定証を免許証サイズで発行し、これを地域の企業とか商店会と連携してポイント制にして地域活性につなげていこうという、日本で初めてのことを武蔵野発でやっています。まさに武蔵野ブランドといいますか、そういった活動

をする団体を守れるような構造、仕組みづくりもご検討いただきたいと思います。

【A委員】 地域で活動している若い方々と、ここでさらに活動している人たちをつなぐプラットフォームみたいなものがないということは、私もすごく感じています。それは武蔵野全市的なことなのではないかと思っているのです。ぜひアイデアを交換しませんか。むしろ若い方々に、こういうやり方をするといいいんじゃないかというアイデアをいただくとやりやすいと思いました。

【むさしの男女共同参画市民協議会】 私は、第三次男女共同参画推進委員会の公募委員でした。私自身が武蔵野市に住み、高校教師として仕事をしていたときに、まず保育園に入るところからつまづき、大変苦労しました。それでも 31 年、仕事を何とか続けてまいりました。私が推進委員になったときには、当然条例があるというつもりでおりました。何とか条例をとるところから始まりました。今、東京に 23 区、26 市ありまして、49 の中の半分近くは男女共同参画条例がございます。女性の活躍について国のほうでもいろいろ言うておりますが、男女共同参画推進は 21 世紀の最重要課題とまで言われています。

私自身が、学童でも、5時に帰るまでには正規としてどうやっていくのかというところで大変厳しい経験をしました。今、正規・非正規の問題もございますが、女性が正規できちんと働き続けられるためには、やはりワーク・ライフ・バランスをきちんととる。若い人がここで子どもを産んで、育てて、きちんと正規で働き続けられるということは、経済的なものがきちんと支えられるということで、女性が生きやすい社会は、男性にも結局生きやすい社会であるという認識を持っております。これからの男女共同参画推進、ワーク・ライフ・バランスの社会を目指してどのようなお考えかということ、一言お話しいただければと思います。

【A委員】 男女共同参画の問題は、今までのいろいろなご苦労があつて、私たちもそういう皆様のご苦労の上で働くことができたという実感は持っています。私も、女性と男性が上手に働いているほうが幸せだと思っています。今、吉祥寺は住みやすいまちと言われますが、実際に吉祥寺に住んでいる人たちは、全然そうではない。私、48年、吉祥寺ですが、働き続けるとかそういうことをうまくできない感じがある。外からのイメージでなく、本当に武蔵野市を住みやすいまちにしていくという取り組みがすごく重要です。そのときに男女の問題を考えていくのはとても重要だと思っていますので、条例化も含めて、市に頑張つてねということも含めて、私は積極的にやりたいと思います。

【FP武蔵野グループ】 武蔵野市の財政が、当面はちょっといいけれども、だんだん悪くなっていく中で、ぜひ市として考えていただきたいのは民営化です。今、市でおやりになられている事業の中で、民間に出しても大丈夫なものが幾つかあるのではないかと。各部局がそういったものを出して、NPOなりそういう団体を呼んで、費用的にもっと安く、効率的にできるようなことを考えていただいて、行政改革も進めていただければと思います。

【A委員】 民営化と普通に言うと、民間企業の営利が入ってきて、安くあげればいいというイメージで捉えがちですが、行政よりも質の非常に高いサービスを提供できるNPOの人たちがいるのに、NPOは経済的にも非常に脆弱で上手な関係が保てないから、行政が漫然とやっているサービスのほうにお金がいってしまっているのはどうかという問題だと思うのです。全部行政でやるのではなくて、NPO

なり何なり、より質の高いサービスを本当の意味で担える人たちに提供していただけるようなことを考えていかなければいけないと思いました。

【C委員】 武蔵野市でも、公園の管理を緑ボランティア団体をお願いしています。市が直営でやりますと大変コストがかかります。自分の近くの公園を自分たちで管理して、植え込みをしていただくとか、現在でも 24 カ所ぐらいの公園を、市民の皆さんにグループをつくっていただいていますし、安全についても、市民安全パトロール隊とか、防災推進員とか、NPOではないのですが、いろんなところで市民の力をお借りしているところです。さらにその取り組みを強くしていくという必要性を感じました。

【武蔵野ワンワンパトロール隊】 10年間の長期計画というのは実際には非常に長いスパンですね。一番大きな問題は、10年たつとタックスペイヤーの構成が大分変わるだろう。若い方がメインのタックスペイヤーになるわけですから、若い方をどういう形でこの計画の中に引き込んでいくのが非常に重要なポイントである。

もう1つは、現実的に財政計画の中で、これだけのいろんなことをやっていったらどういうことになるのか。ある種の危機感を持たないと計画は進まないと思うのです。行政サイドとしては、余り悲観的なことを言いたくないとは思いますが、危機感と期待感のバランスを計画の中にどういうふうに盛り込んでいくかもご検討いただけたらと思います。バラ色だけがいいことではないと考えます。

【委員長】 10年は基金も含めて何とかなるけれども、20年、30年先を見通すと、大変深刻な状態になり得るということがシミュレーション上も出てまいります。重要なお意見として拝聴いたします。

【緑懇話会】 地域の防災を考える上で、私たちは自主防災会をつくっておりますし、地域の方々とも連携して合同の防災訓練をやるというお話も進めておりますが、そこに対するご支援、情報の提供、教育がほとんどないと言っている。マンションがたくさん建って、その自主防災がつくられて、数だけは大変多くなってきていたのですが、教育のためのDVDとかいろんな広報の資料が消防にも防災にもない。その中で、非常に大きな直下型地震などが想定されて、避難とか、要援護者とか、コミュニティセンターの機能はこうだという方針だけが出されてくるという状況は非常にミスマッチです。根本的な方針をきちんと出されて、私たちのところに届くようにお願いしたいと思います。

【市民によるガバナンス推進会議】 私は、日本全国の市町村の行政評価をずっと長く見てまいりました。50年間、武蔵野は日本全国に先駆けていろんなことをやってまいりまして、非常に良かったと思っております。ただ、これからの人口構成の変化とか外的な環境変化、特に日本政府の政策の変化がありますので、そういうものをうまく取り入れて、先を見ていくことがものすごく重要です。市民がある程度安心感を持てるような長期計画、あるいはローリングプランをしっかりといただけるとありがたいと思っております。

【委員長】 大変心強いご意見をありがとうございます。

これで文化・市民生活／行・財政に関する意見交換会を終了します。

4. 閉会（午後3時10分）